

北杜市図書館ボランティアからの意見（追加）

図書館ボランティア「YOMUTOMO」の活動について

YOMUTOMO の活動は 1998 年（平成 10 年）の「金田一春彦記念図書館」の開館と同時に始まりました。

図書館の開館に合わせて制作した、大型紙芝居「お山のせいくらべ」は、練習を重ねて、第 1 回ことばの学校で発表いたしました。

以後、今日まで様々な場面で上演させていただいております。

YOMUTOMO の活動拠点は「金田一春彦記念図書館」です。図書館のニーズに応えられるよう心掛けて活動しています。

主な活動内容は、

- ・読み聞かせ {おはなしの杜・小学校を訪問して（コロナ前）}
- ・ブックスタートへの協力
- ・ことばの学校への協力（第 1 回～20 回まで）
- ・いずみの杜まつりへの協力
- ・杜のクリスマス会への協力

YOMUTOMO はこれからも図書館の活動を応援させていただきます。

「おはなし会は種まき」

「乳幼児おはなし会とわらべうた」

子どもを本の世界へ招き入れる
赤ちゃんは生まれたその日から読書への長い助走をはじめています。
身近な大人との笑顔のやりとり
耳に心地よいわらべうたのくり返し
あたたかいことばのやりとり
この積み重ねがあつてこそ、絵本の読み聞かせや
読書が始まるのです。
伝承の糸が途絶えつつあるいまこそ
図書館員や子どもの読書に関わるわたしたちは
「乳幼児おはなし会」で、わらべうたを、ことばを
文化を子どもに手わたしていきたいと思います。

わらべうたは 不思議なことば
赤ちゃんを笑顔にし ことばを育む
人と人をつなぎ 心に灯をともし
あたたかい声 心地よいことばを贈ろう
いのちの未来に わらべうたをつなげよう

「乳幼児・おはなし会とわらべうた」より抜粋 落合美知子 児童図書研究会

小さな時から子どもたちの心が育っていけるお手伝いをする活動において、物的環境においては、乳幼児の図書の部屋に加え、独自の絵本の読み聞かせやわらべうたやお話をする部屋を設けて欲しい。

人的環境においては、子どもの心が育つ大切な時期を強く思って、子どもに関わる大切さを考えている。ボランティアだけでなく、ボランティアと図書館の方々と常につながって、子どもたちの心をはぐくんでいきたい。

例えば

- ・ブックスタートの本の選書において、ボランティアと司書が共に関わる。
- ・新刊等で司書が薦める絵本の紹介を知る。

ライブラリーはくしゅうボランティア

「手作り絵本サークル よつ葉」の活動について

金子 朋子

・1995年にチューリップクラブという3才以下の子供を持つ母親たちで立ち上げた、幼児クラブの活動の一つとして絵本作りがあった。絵本が大好きな仲間が、自分だけの「絵本」を作りたいと思い始めた。

翌年、町教育委員会主催の「夏休み手作り絵本教室」が開催され、講師の要請を受けた。当初、基本型の絵本だけでなく、独自の発想・感覚でいろいろな種類の絵本を考案した（形や内容）。甲州弁でつづられた民話絵本もあった。

・開催場所は、白州総合会館だったが、2009年からはくしゅう館2階に変わり、製作中に1階のライブラリーに行くことが可能となった。

・手作り絵本のメンバーは当初8人だったが、現在は4人。

・ライブラリーはくしゅうの司書の方と、毎年日程（3回）を決め、見本となる絵本を展示し、北杜市全域の小学校から参加者を募集している。

小学校3年生以下は保護者同伴とし、親子でそれぞれで絵本を作る方もいる。

- ① 第1回 本文の折りと糊付け、表紙の採寸、裁断
- ② 第2回 本文と表紙の合体（本文が乾いたら内容を書き始める）
3回までに自宅にて本文を仕上げる。
- ③ 第3回 表紙を仕上げ、フィルムをかける。

※内容については、必ず下書きをして、図書館の絵本を参考にしながら、描く方法や文章、ペンの種類など等の相談に乗る。

※世界にひとつだけの自分の本。完成したときの達成感は何にもかえがたいと思う。

※今年で27年となるので、これからももっと広くいろいろな地域の人たちと関わりながら、絵本を作っていけるといいと思う。

八ヶ岳朗読サークルほがらか

代表者：大庭仁美

会 員：栗沢美香子 梶原清香 片桐京子 倉田弘江 奥水万里 小林みどり 関えい子
西守由美子 山本尚子

【活動】

1999年、金田一春彦記念図書館（当時大泉図書館）で開催された朗読講座で学んだメンバーが中心となって「八ヶ岳朗読サークルほがらか」が結成された。朗読を学び、発表の場を長坂公民館に得て、2002年春『声の文学全集』と名付けて大人の為の朗読会をスタートした。3か月に1度の朗読会も、令和5年2月で77回を迎えた。その間に老人福祉施設「仁生園」への朗読ボランティア、市内外の小学校・公民館などで朗読や読み聞かせなどを行う。また、県の朗読フェスティバルへの参加などの活動を行っている。2021年、活動の歩みを『朗読をあなたに』の冊子にまとめた。

【意見】

- ・活動を通して、ながさか図書館の歴代司書の方々に大変協力を頂いている。広報活動・発表場所の確保等々。それは、「朗読」を通して文学作品を読む方法以外で、作品の魅力を伝える事、さらに取り上げた作品の作者や関連作品への興味関心を提起する事、これらを図書館が担っていると感じながら、共に作品選び・練習を重ねている。図書館のサービスの多様性の一助となるために、きめ細かい司書の方の協力を今後もいただける環境を保っていただきたい。
- ・長年小学校でのお話会を重ね、子ども達が聴くことの楽しさを知り、お話を聴く準備することが浸透している。言葉を聴いて想像する事の楽しさを感じるのは、少しの訓練も必要ではないかと感じている。これらの実践経過は貴重な時間であるので今後も続けて行ける環境を整えて欲しい。
- ・今以上の利用者獲得の方法として、以下の方法の協力が可能である。
これらは、単発の開催ではなく継続的なものとして実施出来れば、より効果を得られると考えられる。
 - ・ ・ ・ 図書館見学会の開催（それに合わせて朗読会開催）
 - ・ ・ ・ 世代別朗読会の開催（特に中高生対象）
 - ・ ・ ・ 保健・福祉などの関係各課と連携して朗読作品を選定し、テーマに沿った朗読会を開催
 - ・ ・ ・ 生活相談会・子育て相談会等の開催→関連図書の紹介（お話会は子ども対象ですが、子育て世代対象の朗読会）
 - ・ ・ ・ 朗読指導・朗読教室の開催→発表の場を提示する
- ・発足してから今日まで、身近な図書館の司書の方たちと構築した、人間関係・地域の方たちとの交流を尊重していただきたい。
- ・図書館の利用方法の変化を感じる昨今ではあるが、パソコンやスマホに慣れたZ世代へのサービスの方法も必要となっていくが、昭和世代にも本を手取る方法・辿りつける方法を確立して欲しい。広範囲な北杜市の地域の特徴があるので、バスの停留所に図書館も加えて欲しい。
- ・身近な地域へのブックモバイルサービスを展開して欲しい。
- ・限られた予算で、より文化的な環境を維持できる方法を考えて欲しい。

ながさか図書館ボランティア 「布の絵本の会」の活動について

図書館ボランティア布の絵本の（わたぼうし）として、20余年余りが過ぎたのは私たち会員としてもびっくりしています。

絵本やパズル、手遊びの道具や、こんなものを作ってほしいなど要望を聞きながら、図書館に来た人たちに使っていただくため、図書館の人たちに協力を得ながら作成し、差し上げてまいりました。

また、北杜市内の全保育所に制作した絵本、（長坂町内の保育園にはマスクも）などを差し上げてまいりました。

今後も地域に寄り添った図書館で子どもたちの笑い声が聞こえるよう、いち図書館ボランティアとして願うところです。